

平成29年度 佐賀市立本庄小学校 学校評価結果

| 1 学校教育目標 | 2 本年度の重点目標 |
|--|--|
| 「心豊かに 自ら学び たくましく生きる子どもを育てる」 ～ 笑顔で は・は・は 生かしあい ～ ① は … 早く対応 ② は … 発揮・発信 ③ は … 覇気で反応 | ①早く反応 … あいさつ、ありがとうを相手より先に 「特別支援教育の充実」「心の教育の充実」 ②発揮・発信 … 個のよさを発揮する授業設計・発信の工夫 「学びのマナーの習慣化」「家庭学習の充実」 ③覇気で反応 … 全身で生き生き反応・よい姿勢 「健康教育や食育の充実」「運動や健康づくりの推進」 |

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

① 早く反応(特別支援教育の充実・心の教育の充実)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|-----------------|---------------------------------------|--|---|-----|--|---|
| 教育活動 | ●心の教育 | ・「心の木」活動の日常実践 ・生徒指導・教育相談の組織的 活動 | ・子供の実態に応じた予防的対応 に重点を置くことで、内面の成長を 促進する。 | ・月にアンケート、心の葉等を実施し問題の早期発 見に努める。また早期対応につなげるために生徒指 導・教育相談について職員全体で共通理解を図り、支 援体制を充実させる。 ・4つの「あ」(あいさつ・安全・後始末・ありがとう)を基 盤とした指導を通して内面の成長を図る。 | B | ・Q-Uや心のアンケート、教育相談・ 生徒指導全体等で情報を共有し、 より多くの目で子供を支援してい くことができた。また、毎月「心の葉」 の取組では、自他のよさに気づき、あ たらしい人間関係を気付く土台作り につながった。 | 心の木活動の継続・充実を図り、他者との かかわりの中で自己の個性を尊重できるよ うな子供の育成に取り組みたい。また、4つ の「あ」の指導を通して、気持ちを表出で きるように全職員で取り組む。 |
| | ○特別支援教育 | ・特別な配慮を要する子供へ の支援体制の充実 | ・特別支援教育の組織的な支援体 制を確立し、一人一人の教育的 ニーズに応じたかかわりを行う。 | ・障がい特性の理解や支援の方法、保護者面接等 についての研修会を行う。 ・長期目標、短期目標を見据えた細やかな支援計 画の作成を行い、特別支援コーディネーターや生活指導 員等と連携した支援の充実を図る。 | B | ・佐賀大学から講師を招き、子供理 解についての研修会を開いた。 ・各学級担任が個別の指導計画を作 成し、特別支援教育コーディネーター と日頃の学習状況等を確認しながら 支援を行った。今後は、学級・学年間 を超えた支援や関わりを共通理解を 行っていくことが必要である。 | 情報交換の場を隔週程度での実施できる時 間を設け、配慮を要する児童の共通理解を 図る。また、夏休み等を生かして、具体的 な支援のあり方を学ぶ研修会を実施し、日頃 の関わりを充実を図る。 |
| | ●いじめの問題への 対応 | ・人権・同和教育の充実 | ・互いのよさを認め合いながら、一 人一人を大切に、一人一人が 大切にされる集団づくりを行う。 | ・人権・同和教育の視点の一つである「人間関係づ くり」を中心に据えた、授業実践を行う。 ・人権教室や人権標語活動の中で、子供達の人権感 覚を高める場を設定する。 | B | ・各学年・学級で、児童の実態に応じ て「人間関係づくり」の授業実践や 日々の指導、人権標語づくりを行っ た。そのことで、児童の人権意識を高 め、互いのよさを認め合いながら一 人一人を大切に作る雰囲気づくりを 行うことができた。 | 人権の集いの内容を、人権教育の目標や 児童の実態を考慮しながら年間を見通して 計画し、共通理解のもと、互いのよさを認 め合いながら一人一人を大切に作る集団づ くりを行っていくようにする。 |

② 発揮・発信(学びのマナーの習慣化・家庭学習の充実)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|--------------------------------|------------------------|---|--|-----|---|---|
| 教育活動 | ●学力の向上 | ・授業力の向上 | ・各教科等において、自ら知って考 えて行動するための資質・能力を身 に付けさせる研究実践を組織的に 進める。 | ・各職員が、年間3回以上の研究授業を行い、授業評 価シートを基に授業研究会を行うことで、子どもたちに 育みたい資質・能力を身に付けさせる。 ・資質・能力の評価方法の在り方を探り、実践をとお して資質・能力を測定していく。 | B | 各教科等において育成すべき資質・ 能力を明らかにし、その資質・能力を 育むという観点から授業改善を行っ たことで、教師が期待する子供の姿 や意識の変容が見られるようになって きた。今後、資質・能力が身に付いたか どうかの客観的な効果測定が必要で ある。 | 育成すべき資質・能力が子供に身に付いた のか客観的に測定する評価方法の在り方を 検討する。 |
| | | ・学習習慣の定着 | ・家庭における主体的な学習態度 を身に付けさせる。 | ・家庭学習の手引きを配布することで学習内容や方法 の周知を家庭に図ると共に、家庭学習のよりよい実践 を取り上げることで子どもの意欲を高め行動化を図 る。 | B | 家庭学習の手引きを配布し、時間や 方法などの留意点を共通理解した。 1学期末には、各学級で自学をかん ばった児童を表彰し意欲付けを図 った。 | 中学校との連携を図り、中学校の家庭学習 の在り方などを周知することで、見通しと意 欲を持たせる。 |
| | ◎教育の質の向上に 向けたICT活用教育 の実施 | ・授業におけるICTの効果的な 利活用 | ・各教科等でICTを活用した授業を 推進する。 ・児童の育成すべき資質・能力の向 上に効果的にはたらくICTの利活用 を探る。 | ・ICTを活用した授業を参観し、その効果について の情報交換を行う。 ・背面掲示板や回覧板を利用し、ICT活用の効果的な 方法を情報交換を行う。 ・ICT支援員との連絡用/バインダーを用いて連携を深 めることで、職員のICT利活用を促進する。 | C | ・ICT支援員との連携がうまく取れ、 職員のICT利活用への意識が高ま った。 ・ICTを活用した授業に関する情報 交換を行えず、効果的な利活用につ いて考えることができなかった。 | 校内研究の授業評価表に「ICT利活用」の 欄を付け加え、ICT活用の効果について 考える機会を設ける。 |

③ 覇気で反応(健康教育や食育の充実・運動や健康づくりの推進)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|----------|--------------------|---|---|-----|--|--|
| 教育活動 | ●健康・体づくり | ・健康・体力の保持増進 | ・「食」や「体」についての関心を高 めるとともに、健康・体力の保持増 進に主体的に取り組む子供を育成 する。 | ・教科等、児童会活動などを活用して、朝食や給食、 健康、運動への関心を高めさせる。 ・運動の楽しさを実感させる授業づくりを基盤に、外遊 びの奨励、スポーツチャレンジへの積極的な参加、運 動委員会主催のスポーツ大会の開催などを行う。 ・食や健康に関心がもてるような授業実践や教材開発 を、栄養職員や養護教諭と学級担任が連携して行う。 | B | ・さがんキッズ体力アップ記録カード を活用し、家庭と連携しながら、健康 や運動への関心を高めることがで きた。 ・学期に一回運動委員会主催のス ポーツ大会を開催し、全校で運動を 楽しむことができた。 ・養護教諭や栄養職員と連携し、保 健や学級活動、家庭科の授業を実施 した。 | ・たてわり遊びの回数が少なくなったり、校 舎建て替えのために運動場がせまくなっ たりしている現状があることから、より多様な 運動への親しみ方を示しながら、子どもが 運動や遊びを通して、楽しく運動に取り組 むことができるようにする。 ・委員会活動などを主体とした食や健康、運 動に関する集会などを開催し、健康・体力の 保持増進を図る。 |

④ 開かれた学校づくり

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策 |
|------|------------|--|--|--|-----|--|--|
| 学校運営 | ○家庭・地域との連携 | ・学校支援ボランティアの活用 ・地域の各種団体、PTAとの連 携 | ・学校支援ボランティアを生かした、 郷土への誇りや愛着を深める教育 活動の実施 ・地域や家庭、PTA等と連携した行 事等への参画 | ・土曜授業を活用して、地域の「ひと・もの・こと」とふ れあう教育活動を行う。 ・クラブ活動や授業等で地域人材を、ゲストティー チャーとして積極的に活用していく。 ・地域と連携しての防災訓練を行う。 | B | ・今年度は、「本庄の語り部づくり」の 学習で、本庄公民館や町づくり協議 会、佐賀大学と連携して活動を進め ることができた。 ・本庄学や生活科及びクラブ活動を 中心に、地域の方をゲストティー チャーとして活用していくことが できた。 ・地域と連携して、地域の方と共に防 災避難訓練を実施することができた。 | ・次年度はVR等の活用も視野に入れて、本 庄公民館や町づくり協議会、佐賀大学と連 携し、本庄の素晴らしさをより広く発信で きるように計画的に進める。 ・地域合同の避難訓練を継続し、子供達の 危機回避能力を高めていく。 ・ゲストティーチャーを活用するときは、事前 に計画等を教務、教頭などに相談させ、より 効果的な活動ができるように配慮していく。 |

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○ 保護者対象のアンケートでは、本校の教育活動に対して、全項目で、90%以上の保護者から「概ね達成以上」の評価であった。昨年度より、アンケートの評価結果及び回収率が向上していること
から、保護者の本校の取組への理解が更に進んだと言える。次年度に向けては、他者とのかかわりの中で自己の個性を尊重できるような子供の育成するために、SCや家庭との連携を図りながら
心の教育を充実させていく。また配慮を要する児童については、全職員で共通理解を図ると共に、全職員で関わっていく。学力の向上については、育成すべき資質・能力が子供に身に付いたのか客
観的に測定する評価方法や教科の内容を深めるICTの利活用を工夫する。健康・安全面では、子どもが運動や遊びを通して、楽しく運動に取り組むことができるようになる。

●は共通評価項目、○は独自評価項目